



団体の掃除活動は毎週月・木曜の朝9時から。「ポイ捨て条例に頼るよりみんなのモラルに期待」とは長谷部氏。オシャレなカードの配布やカンパジの販売などで活動をPR

# GO! GO! PATRICK

パワフルHIVポジティブ



今週の目的地

## 長谷部 健

1972年、生まれも育ちも東京都渋谷区神宮前の31歳。博報堂を昨年10月に退職し、2か月間のヨーロッパ・アフリカ放浪を経て、表参道の掃除活動を行うNPO「green bird」設立。生活の木やNIKEといった企業と連動し、自ら「街と心の美化」を念頭に、「モノの豊かさからココロの豊かさ」へと結びつく活動を行う。その理念を踏まえ、4月28日渋谷区議会選に出馬し、見事当選。今後、政治家としての活動にも注目が集まるどころ。HP (<http://www.hasebeken.net>) (<http://greenbird.jp>)

vol. 431

## 「green bird」代表 長谷部健さんと表参道でゴミ拾いをする

タバコのポイ捨てに「ルール」で対抗する自治体がある一方、表参道では、NPO「green bird」による、少し変わった「ゴミ拾い」プロジェクトが始動していた

撮影/高橋聖人 イラスト/大寺 聡 構成/茅島奈緒深

「緑の活動にしたらいいんじゃないかって。目をひくロゴを作ったり、企業とのコラボレーションを展開したりね。オレらに賛同してくれたNIKEが作ってくれたユニフォームは、かなりいいよ。ただ街をキレイにしようよ」と言っても、人はなかなか動いてくれないと思った。バト 特に表参道は若い人たちが多く集まるし、彼らを動かすにはちょっとしたヒネリが必要だよな。

吸って、吸い殻を道に捨ててたんだ。だから、「オレは学校の先生じゃないからタバコについては何も言わない。でも、吸い殻を道端に捨てるのはカッコ悪いと思う」と注意したんだ。そしたら、何の反発もなく「すみません、捨ててきます」という返事が返ってきたんだ。バト へえ、意外と素直なのね。長谷部 ポイ捨てる人は、無意識にしているだけなんだよね。だから、意識を持ってもらえばいい。ゴ

ミ拾いはもちろん街をキレイにするためだけ、オレたちはゴミ拾い屋さんではない。一度、ゴミ拾いに参加してくれた人って、次からポイ捨てが気になって自分では絶対にできなくなる。そして、また活動に参加してくれる。少しづつ、そうやって広がってほしいなって。バト いや、カッコいいのは、健ちゃんのほうよ。健ちゃんたちのメッセージが渋谷全体、新宿や池袋にまで届くっていいね。

バト こう言っちゃなんだけど、健ちゃんをはじめ、ここのスタッフ全員、街のゴミを拾ってイイコトしてますよって顔してないよな。長谷部 ……自分で言う分にはいいけど、人に言われるとさくさく引つかかるな。バト ヤダヤダ、誤解しないで健ちゃん、それだけみんながイケメンでオシャレって意味だつてば!! 長谷部 ま、顔でゴミを拾っているわけじゃないからよしとするか。バト ボクが言いたいのはね、カッコいい人たちがゴミを拾っているから、「green bird」が掲げている「ゴミのポイ捨てってカッコ悪いじゃん」というメッセージに説得力があるってこと。確か去年から活動を始めたって聞いているけど、きっかけは何だったの? 長谷部 もともと、表参道の商店振

興会・青年部「櫻会」の人たちが表参道の掃除をやりだして、今ではいろんな人たちがやっているんだ。月・木が櫻会、火・金は櫻会が雇っているクリーンバスターズという人たち。水曜日は櫻会に加盟する美容院の人たち、土曜日はラフォーレ原宿が雇っている高校生バイトという感じで。だから、これだけキレイな通りをキープしているんだけど、試みに櫻会の活動に参加してみたわけ。そしたら、なんとも気持ちよかった。子供のころ、母親に家の前を掃除してきなさいって言われても、面倒くせえ〜としか思っていなかったんだけど、自発的に参加するっていうのは全然違うね。自分の手によってキレイになっていくのを見て、気



前日、店のオーナーとケンカしてきたバト、「お掃除してセラピーになるわぁ」とせつせと動く。バトの着ているトレーナーは「green bird」オリジナルで、デザインはBA-TSU



分爽快だった。掃除をするのは朝で、人通りがほとんどない時間帯だから余計そうかもしれない。それが昼が過ぎ、人通りが増えていくに従って、せっかくな自分掃除した通りに、ゴミをポイ捨てしていき人がいて……。これはどーしたもんか、と真剣に考えたよ。バト そこで、広告代理店にいたキヤリアを生かした発想をした、と? 長谷部 そう、これをプロモーション

## 「ポイ捨てはカッコ悪いという気持ちを持つだけで、街は変わる」

### Pat's ニュース

スーパーウイルス (耐性HIVウイルス) って知ってる? HIVの治療をやめちゃった人とかの体内で、ウイルスが突然変異をして、今ある治療薬が効かない「スーパー」なヤツになっちゃってるの。こいつが今、日本で拡大してるみたい。最近の感染者にこのスーパーウイルスの保有者が多い。ヤバいよ。ホント。誰か助けて〜。

### Pat's 日記

ボクは今、妹の大学の卒業式に出るために、アメリカに帰って来〜す! みんな知ってると思うけど、アメリカの大学は卒業するのが大変。学費も高いしね。それをね、妹はバイトしながら、頑張って頑張って、この5月に卒業! うれしいっつ! でも、1週間お店を休む分、お給料が減っちゃう……。どうしよ〜。

# GO! GO! PATRICK

パワフルHIVポジティブ



今週の目的地

## 同性愛者間のDV

内閣府の調査(「配偶者等からの暴力に対する調査」)によると、DVの被害経験のある男性8.1%。この数字に同性愛者が含まれるかどうかは不明だが、同性愛者間にもDVは確実に存在するし、その数は決して少なくはないだろう。3月末、パトリックは、当時付き合っていた彼氏と些細なことから口論、「グー」で殴られるという暴力を受けた。届け出た警察は、差別的な態度をとることなく、親切に対応してくれたという。DV防止法が公布されて2年と少し。この事件をきっかけに、同性愛者間のDVについて考えてみた

vol. 432

## 見過ごされがちな同性愛者間のDV問題、なんとパトが被害者に!

DVは被害者=女性、加害者=男性という構図で語られがち。しかし女性から被害を受ける男性もいれば、同性愛者間でのDV問題もある。パトも先日、彼氏(当時)にぶん殴られて……

撮影/高橋聖人 イラスト/大寺 聡 構成/茅島奈緒

パト ボクってさ、人の神経を逆なでするのがうまい性格じゃん。だから、ボクのことを殴りたくなる気持ちちは、よくわかる。

過去に、付き合っている人と取っ組み合いのケンカになり、相手が投げたピンが眉間に当たって、5針縫ったことがある。身の危険を感じて、包丁を取り出したこともある。で、今回は耳の鼓膜が破れ、全治1か月のケガを負った。パトによれば、「ゲイの間でもドメスティックバイオレンス(DV)はよく出てくる話題の一つ。特にアメリカは、DVは異性愛者よりも同性愛者間のほうが多いっていうデータもあるんだ。ブルトリコなんか、つい最近、DVを取り締まる法律が、同性愛者にも適用になったんだよ」と。

ゲイの間でも、DVがあることを身をもって知りつつ、そのうえ被害

に遭うのは、自分の性格にも原因があると思うなら、とつと性格直せよ、と言いたい。しかし、「ボクの血筋はイタリア系。声も大きいし、軽いケンカはコミュニケーションの一つ」と考えるらしい。反省しているのか、開き直っているのか。はっきり言えるのは、懲りない性格だということか。

パト 今回の彼の場合、過去に恋人を殴ったことがあるって言っていたし、実際ボクも何回か、もしや今殴られる!?って、身の危険を感じた瞬間があった。食事中に、ムナグラつかまれたこともあったしね。ただ、1回でも殴ったら、ボクらの関係は終わりだからね、とは言っていたんだ。その1回がまさか、あのときとは……。殴られた直後から、頬がジンジンして、耳もキーンとしてしまったけど、精神的なショックのほうが大きかった。エッ!? 今殴られたのは本当にボクなの? って。ああ、この5年間、3か月以上続いた人はいなかったのに、彼とは長く4か月半。この人となら、長く付き合っていくけるかもって、ちょっと期待していたのに……。

ん!? そろそろ彼とは別れようかなって言ってなかったっけ? パト そう思っていたし、ほかにいいコがないかなあ〜って思っていたことも事実だけど、1人の人と長く付き合いたいっていう気持ちはあるの!

暴力をふるわれても、長く付き

合えればいい? パト 深く愛している相手なら、二人で乗り越えようって思うけど、彼に対しては、そうは思わなかった。殴られた後、「別れよ。出てって」って言ったのに、彼はなかなか出ていかないから、彼をヘッドロックして家から追い出した。一人になって、まずボクは警察に電話したんだ。「今殴られたんですが、どうしたらいいですか」って。そしたら、ケガを負っているなら病院に行ってくださいって。言われた通りにながら、ボクは彼に電話してメッセージを残したの。「これから病院へ行きます。その結果次第で、警察に行きます。」病院で検査をした結果、耳の鼓膜が破れていました。責任を取ってもらおうので、よろしく」って。

警察で被害届を出したとき、担当してくれた警官に、どうしたいかと聞かれ、彼を呼んでもらうようにお願いしたパト。きちんと話をしたいと思ったからだという。

パト ボクのメッセージを聞いていたからか、彼は素直に出頭したよ。すごく悪いことをしてしまったって反省顔で。そこで、ボクは別れ話をして、これ以上事を荒立てるつもりはないことを告げたんだ。ただし、条件が2つある、とも。その条件は、①医者から、入院する必要があるかもしれないって言われているから、そうなったときはベットの世話をはじめ、諸々のサポートをして。ボク

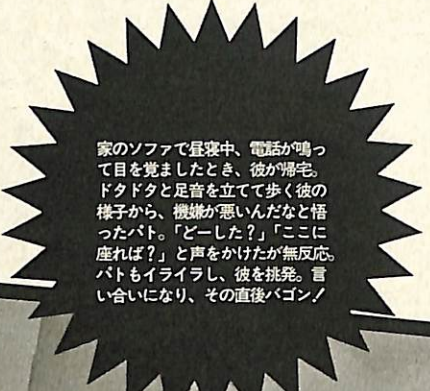
はHIVのことで障害者認定を受けているから医療費はすべてタダだから、お金の問題はなかった。

②DVを克服するために、カウンセリングに通って。DVに走ってしまふのは心の病気みたいなもの。自分の感情をコントロールできないのが、原因だと思うんだ。いくらボク

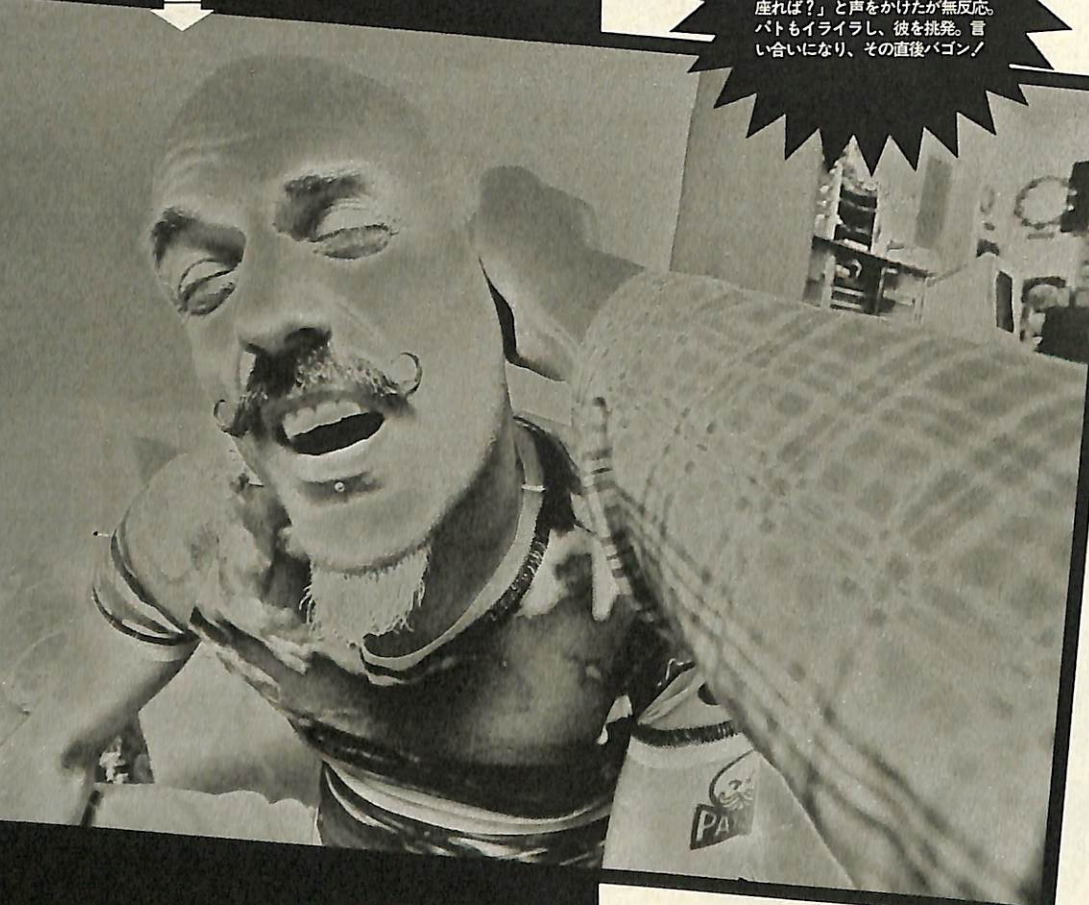
とは別れても、次に彼が付き合った人が被害に遭うとしたら、黙って見過ごせない。だから、それも条件に入れたんだ。

いずれも、彼は納得してくれたよ。変な言い訳も屁理屈も言わなかった。それから、約2か月。耳の調子も回復し、DJ業に支障はない。恋

愛面にも同じことが言えるもよう。パト ジ・つ・は、今いいなあ〜って思うコがいるんだあ〜。身長は183cm、スタイル抜群。小顔で、純和風の超美形。服装のセンスも◎。車はNSX。お金持ちらしい。今度こそ、長続きする相手かもしれないなあ〜って思っているんだ♡



家のソファで昼寝中、電話が鳴って目を覚ましたとき、彼が帰宅。ドタドタと足音を立てて歩く彼の様子から、機械が悪いんだと悟ったパト。「どーした?」「ここに座れば?」と声をかけたが無反応。パトもイライラし、彼を挑発。言い合いになり、その直後パゴン!



## ボクは神経を逆なでするのがうまいから殴りたくなるのもわかる

**Pat's ニュース**  
アメリカの人口調査で、面白い結果が出ました。異性間で結婚しているカップルと、同性愛カップルで、大卒率、平均年収、持ち家率などがほぼ同じなの。つまり、ふたりの人間が一緒に暮らしていくっていうのは、男女だろうと同性同士だろうと、同じってことよ〜。このテーマは近いうちに詳しく報告するね。

**Pat's 日記**  
帰ってきたよ〜ん! アメリカから。今回、滞在したヒューストンは、なんていうのかなあ、日本でいう名古屋みたいな感じ? アメリカで3番目に大きな都市で、何か起ころう心なんて期待していたんだけど……。のんびりしてるのはいんだけど、ちょっと刺激が少なくて、シヨックだったあ〜。